

環境経営レポート

【発行日 2024年06月28日】

新明和パークテック株式会社 製品本部 羽生工場
【2023年度版・（活動期間2023年04月～2024年03月）】



目次

1. 組織の概要	P1・2
2. 対象範囲	P2
3. 環境経営方針	P2
4. 環境経営目標	P3
5. 環境経営計画	P3・4
6. 環境経営目標に対する取組結果とその評価	P4・5・6・7・8
7. 次年度（2023年）環境経営目標及び環境経営計画	P8・9
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、起訴等の有無	P9
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P10

1. 組織の概要

1) 事業者名及び代表者名

新明和パークテック株式会社 製品本部 羽生工場

工場長 霜田 将博

2) 所在地

埼玉県羽生市小松台2丁目705-23番地

3) EA21 環境経営組織図 (2023年度)



担当	責任及び権限
最高責任者（サイトの最高経営者）	1) 環境経営方針の作成・周知 2) 環境管理責任者の任命 3) 環境経営マニュアルの承認 4) EMSの実施及び管理に必要な資源の準備 5) 中期環境経営目標及び環境経営計画書の承認 6) マネジメントレビューの実施 7) 環境経営レポートの承認（外部への公開の承認含む） 8) 所轄官庁への提出書類の承認
環境管理責任者	1) EMSの構築（環境経営マニュアルの審査）運用 2) 中期環境経営目標及び環境経営計画書の審査 3) 実施状況の最高責任者への報告（マネジメントレビューへのインプット） 4) 環境経営レポートの審査
EA21担当部署（EA21事務局）	1) 中期環境経営目標及び環境経営計画書の作成 2) 環境教育計画の作成 3) 法令規制事項の取りまとめと最新情報の入手 4) 所轄官庁への提出書類の作成と提出 5) 環境経営レポートの作成
生産管理担当部署	1) 外部からの苦情・要望事項受付処理 2) 各部署の環境上の想定される緊急事態の取りまとめ 3) 緊急連絡網の作成維持管理
生産担当部署	1) 化学物質の取り扱いに関する管理
各部署部長	1) 部署の環境経営目標を作成（環境経営計画書を含む） 2) 環境経営計画書に基づき運用し、結果を確認評価する 3) 環境負荷に対する教育訓練の計画実施 4) 環境上の緊急事態への定期的訓練の計画実施

4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者

製造課

山田 学

担当者

製造課（環境事務局）

岡村 博

連絡先

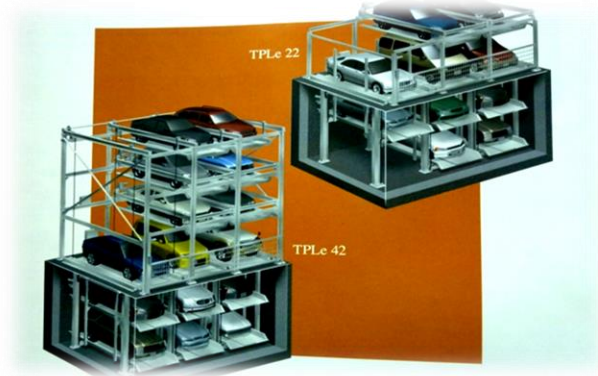


048-562-1234

FAX 048-562-1921

5) 事業の内容

機械式立体駐車装置の製造



6) 事業の規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
生産量	パレット	7,355	7,981	8,614	7,927
出荷額	百万	9,388	9,799	10,494	12,233
従業員	人	60	65	66	76
敷地面積	m ²	15,155	15,155	15,155	15,155
建屋面積	m ²	5,895	5,895	5,895	5,895

*単位のパレットとは乗用車一台を載せる収容装置を言う。

2. 対象範囲

認証登録範囲

機械式立体駐車装置の製造

環境経営レポートの対象期間 2023年04月01日～2024年03月31日

// 発行日 2024/06/28

3. 環境経営方針

私達は、地球環境問題を自らの課題と認識し、「機械式立体駐車装置」製造の調達・生産・発送業務を通して、環境にやさしい下記の活動の実践により、社会に貢献します。

- 環境関連の法規制および当社が合意した取り決めに厳守します。
- 資源とエネルギーの有効利用ならびに廃棄物の削減に対する環境経営目標を定め、目標達成のために次の活動を行います。
 - 電気・ガス・燃料・水使用量の削減
 - 廃棄物排出量の削減及びリサイクル化の推進
 - 化学物質（PRTR対象物質）使用量の削減
 - 私達が生産する製品に関する環境配慮
 - ・業界唯一の粉体塗装技術で環境に優しい製品造り
- 全従業員に、この環境経営方針を含む環境教育を行い、環境への意識向上に努めると共に、全員参加で環境改善活動を行います。



2006年 4月18日制定

2023年 4月18日改訂

新明和パークテック株式会社
製品本部 羽生工場長 霜田将博

4. 環境経営目標

※生産活動のみならず運搬に関する物流活動も重点項目とする

環境への負荷の現状と取組状況のチェック結果を検討し、効果が期待できるものとして、温室効果ガス排出量、廃棄物総排出量、総排水量、化学物質（P R T R物質）使用量、紙使用量等の削減とグリーン調達の推進に取り組むこととした。

一方、昨今の社会要請により、環境保全の取組みとして、事業活動へのインプットに関する項目、事業活動からのアウトプットに関する項目、環境経営システムに関わる項目に積極的に取り組むこととした。環境負荷と環境への取組み結果を踏まえ定めた環境負荷低減のための目標は次のとおりである。

環境負荷低減項目

*基準年は2016～20年度の平均とする。

東急パワーサプライCO2排出係数「0.491」2020年度使用
東急パワーサプライCO2排出係数「0.478」2022年度より使用
単位：kg-Co2/kWh

(基準年度)

アウトプット項目 総量 (単位)		平均年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）kg	911,958	907,399	902,839	898,279	893,718
2	廃棄物総排出量 kg	77,141	76,756	76,370	75,984	75,598
3	総排水量 m ³	4,469	4,447	4,425	4,402	4,379
4	化学物質（P R T R対象物質）使用量 kg	1,607	1,599	1,591	1,583	1,574
5	紙使用量 kg	738	735	731	727	723

5. 環境経営計画

2023年度の当サイトの主要な環境保全に向けた具体的な取り組み内容は以下のとおりである。

1. 温室効果ガス排出量削減

- ①片門型クレーン更新（フルインバータ化）
- ②溶接機更新（1台～2台）
- ③外灯のLED化
- ④塗装乾燥炉断熱改善検討
- ⑤現場事務所空調フィルターの清掃
- ⑥作業量に合わせた給油タイミングの調整

2. 廃棄物総排出量削減

- ①間接材料の削減（砥石）
- ②「詰め替え・再利用」品の選択推進
- ③パッキング用ラップ使用量削減

3. 総排水量の削減

- ①水道使用量の日常点検による使用量の監視
- ②水漏れ発見時は即修理依頼をする
- ③パレット洗浄時の高圧洗浄機有効活用

4. 化学物質使用量の削減

- ①前処理表面調整剤、化成剤の変更検討
- ②部品のレイアウトを検討し補修を抑える工夫をする
- ③補修塗料を最後まで使い切る工夫をする
- ④補修塗料のムダ使いをやめる

5. 紙使用量の削減

- ①工程内検査成績書の裏紙使用
- ②間材注文書のPDF化推進（FAX→メール）
- ③裏紙使用の励行【啓蒙活動】
- ④配布資料をPDF等でメール配信の推進
- ⑤2in1、4in1、機能の活用、両面コピー設定の教育（設定方法等）
- ⑥各複写機カウンターを記録する

6. 私達が生産する製品に関する環境配慮

- ①部品組立作業で出るゴミの分別と再利用
- ②集塵フィルターの再利用の検討・実施
- ③場内・現場戻り品に対する金属の分別及び再利用
- ④ピッキングライン作業で発生するゴミの分別及び再利用（雑誌・廃プラ・ダンボール・梱包材）
*ピッキングラインとは部品の自動搬送により荷揃えする設備を言う。

6. 環境経営目標に対する取組結果とその評価

1) 環境への負荷チェック

当サイトの業務内容は製造業であり、環境負荷として主に温室効果ガス排出量、廃棄物総排出量、P R T R物質の排出・移動量及び総排水量が該当する。これらのことにより環境負荷として捉えたものは下表のとおりである。

当サイトの環境負荷の概要は次のとおりである。

二酸化炭素

二酸化炭素排出量は電力が約53.8%、L P Gが44.1%、残り2.2%が燃料油である。
電力の主な使用は製造ライン、塗装設備、排水処理施設、部品自動倉庫等である。
L P Gの主な消費は塗装前処理水(槽)の加温と、塗装ラインの水切り乾燥炉・焼付け乾燥炉です。

産業廃棄物

全体の中で主な廃棄物はダンボール47.9%、廃プラ30.8%汚泥9.5%

一般廃棄物

一般廃棄物の内容はダンボール、紙ゴミ、可燃ゴミ、不燃ゴミである。
ダンボールと紙ゴミは、古紙再生資源としてリサイクル処理している。
可燃ゴミと不燃ゴミは分別をし処分量の実績を把握、可燃ゴミは単純焼却とし最終処分量として集計している。不燃ゴミは全量を最終処分量として集計している。

化学物質（PRTR）

当工場では、塗装の大部分を静電粉体塗装によって施工しているので、塗装に伴う化学物質の負荷は少ない。

化学物質（PRTR物質）として排出している主なものは製品塗装補修用の溶剤塗料（トルエン・キシレン・エチルベンゼン等）で化学物質のリスクアセスメントを確実に実施している。
フォークリフト用の燃料油（トルエン・キシレン等）塗装前処理剤（亜鉛化合物）溶接用ワイヤー（マンガン）である。（PRTR物質排出量は使用量で代用している）

排水

主に塗装前処理時の金属表面処理、洗浄に使う排水と生活排水である。
（総排水量は水使用量で代用している）

コア指標・実績値

（購入する電力排出係数は「東急パワーサプライ0.491kg-Co2/kWh」2020年度で算出）

（購入する電力排出係数は「東急パワーサプライ0.478kg-Co2/kWh」2022年度・2023年度で算出）

アウトプット項目	単位	2021年度	2022年度	2022年度	2023年度
温室効果ガス排出量 （二酸化炭素換算）	kg	943,424	945,096	945,096	858,919
生産量当り	kg/パレット	118.21	109.72	109.72	108.35
PRTR物質排出・移動量	kg	1,452	1,397	1,397	1,435
生産量当り	kg/パレット	0.182	0.162	0.162	0.181
廃棄物総排出量	kg	110,920	110,400	110,400	46,100
生産量当り	kg/パレット	13.90	12.82	12.82	5.82
総排水量	m ³	4,962	5,322	5,322	4,317
生産量当り	m ³ /パレット	0.622	0.618	0.618	0.545
紙使用量	kg	693	560	560	649
生産量当り	kg/パレット	0.087	0.065	0.065	0.082

2) 環境経営計画の取組結果の評価

今年度の環境保全活動が終了し、環境管理責任者とE A 2 1 事務局が環境への取り組み結果の評価を行なった。2023年度の評価結果は次のとおりである。

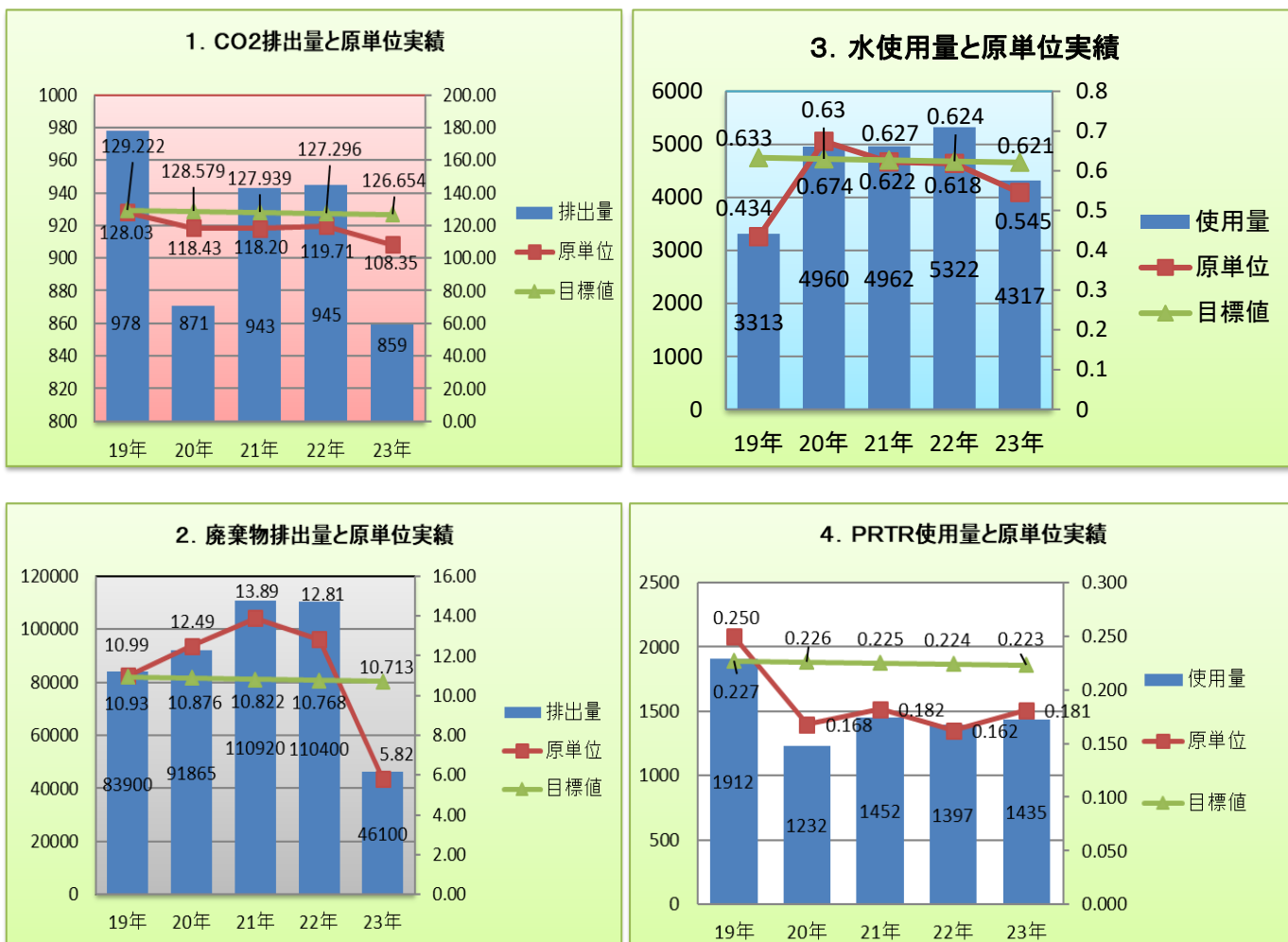
No	推進項目	単位	今年度計画	今年度実績	評価
1	温室効果ガス排出量の削減	kg/パレット	126.654	108.354	○
2	廃棄物総排出量の削減	kg/パレット	10.713	5.816	○
3	総排水量の削減（水使用量）	m³/パレット	0.621	0.545	○
4	化学物質（P R T R対象）使用量の削減	m³/パレット	0.223	0.181	○
5	紙使用量の削減	kg/パレット	0.102	0.082	○

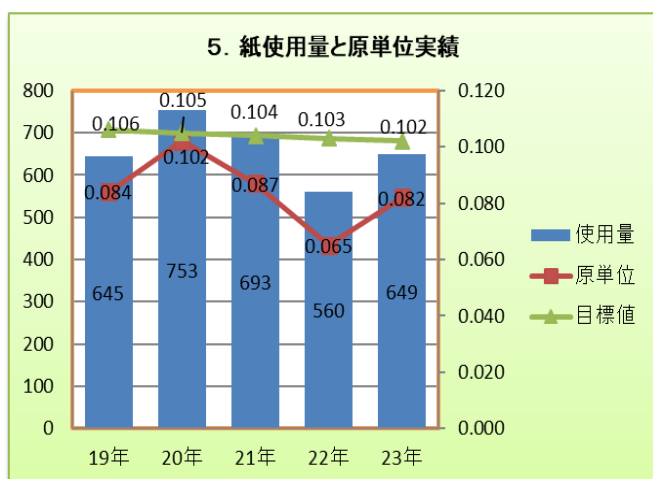
今年度は、推進5項目（温室効果ガス・廃棄物・水・化学物質・紙）5項目達成であった。

- | | | |
|------------------|-------|----------|
| ①温室効果ガス排出量は目標に対し | 18.30 | kg/PLの達成 |
| ②廃棄物総排出量は目標に対して | 4.90 | kg/PLの達成 |
| ③総排水量は目標に対して | 0.076 | m³/PLの達成 |
| ④化学物質使用量は目標に対して | 0.042 | kg/PLの達成 |
| ⑤紙使用量は目標に対して | 0.020 | kg/PLの達成 |

生産量の前期比微減したが、またユーザーからの受注形態が小口化しており梱包材・廃棄物の非効率が発生。また、製品形態が変化した事による廃棄物が増えた。

過去5年間（2019年～2023年）の実績推移グラフは下表となる。





3) 環境保全の取り組みチェック結果

環境省発行2017年度版、エコアクション21ガイドラインの環境への取り組みの自己チェックリストに準じ、環境への取り組みについて自己チェックした2023年度の結果概要は次のとおりであります。

- ①事業活動へのインプットに関する項目の施策は76%で、生産工程での省資源化が進んでいる。
電気設備については省エネ機器への切り替えが完了しつつある。
- ②事業活動からのアウトプットに関する項目の施策実施度合いは54%となり、
温室効果ガスの排出抑制・廃棄物等の排出抑制で施策の実施度合いが伸び悩み。
- ③製品・サービスに関する項目については、低公害の使用が促進されている。
- ④現在のところエコビジネス、技術開発、国際協力、及び海外事業、投資、融資等の事業は行っていない。

* 取り組みチェック日 活動前 2023年4月 1日
 活動後 2024年3月31日

取り組みチェック結果は次のとおり

施策	チェック結果の点数		満点の場合の点数		施策実施度合(%)	
	活動前	活動後	活動前	活動後	活動前	活動後
1. 事業活動へのインプットに関する項目	269	275	362	362	74	76
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	105	111	204	204	51	54
3. 製品及びサービスに関する項目	53	53	98	98	54	54
4. その他	26	26	100	100	26	26
合計	453	465	764	764	59.3	60.9

表の見方！！ 環境保全に関する個々の施策毎に、おおむね実施している場合は2点一部実施している場合は1点未実施の場合は0点として、各施策毎に集計し環境保全に関する施策の実施度合いを示した。また、各取り組みチェック項目の結果に応じ、3点～1点の重み付けを行なった。施策を全ておおむね実施している場合は、施策実施度合い100%となる。

4) 環境保全効果別実施状況

自己チェックした環境保全に大きな効果がある項目の実施状況は次のとおりである。

施策	概ね実施項目数		一部実施項目		未実施項目	
	活動前	活動後	活動前	活動後	活動前	活動後
1. 事業活動へのインプットに関する項目	61	62	9	9	15	14
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	20	21	9	9	17	16
3. 製品及びサービスに関する項目	8	8	10	10	5	5
4. その他	2	2	5	5	12	12
合計	91	93	33	33	49	47

EMSの取り組みは、本格的な活動を開始してから17.5年経過し、環境への取り組み実施度合いは60.9%となり前期比+0.7%となった。

今後も環境コミュニケーション及び社会貢献に、積極的に取り組んでゆく。

環境保全に重大な効果がある項目のうち高額の投資を必要としない項目は、年度施策として推進していき、設備投資を要する項目は、中期目標として取り上げて推進してゆきたい。

7. 次年度（2024年）環境経営計画

1) 温室効果ガス排出量削減

- ①厚生棟3階空調設備更新
- ②クレーン更新（フルインバータ化）
- ③溶接機更新（1台～2台）
- ④塗装乾燥炉断熱改善検討
- ⑤防犯灯のLED化
- ⑥現場事務所空調フィルターの清掃
- ⑦作業量に合わせた給油タイミングの調整

2) 廃棄物総排出量の削減

- ①パッキング用ラップの使用量削減
- ②一般廃棄物・産業廃棄物の分別推進
- ③間接材料の削減（砥石）

3) 総排水量の削減

- ①水道使用量の日常点検による使用量の監視
- ②パレット洗浄時の高圧洗浄機有効活用
- ③水漏れ発見時は即修理依頼をする

4) 化学物質（PRTTR対象）の削減

- ①前処理剤の管理濃度調整検討・実施
- ②部品のレイアウトを検討し補修を抑える工夫をする
- ③補修塗料のムダ使いを止める
- ④補修塗料を最後まで使い切る工夫をする

5) 紙使用量の削減

- ①各複写機カウンターを記録（継続）
- ②2in1、4in1、機能の活用、両面コピー設定の教育（設定方法等）
- ③配布資料をPDF等でメール配信の推進
- ④裏紙使用の励行【啓蒙活動・継続】
- ⑤保存文書の電子化促進
- ⑥間材注文書のPDF化推進（FAX→メール）
- ⑦工程内検査成績書の裏紙使用

6) 私達が生産する製品に関する環境配慮

- ①部品組立作業で出るゴミの分別と再利用
- ②ピッキングライン作業で出るゴミの分別及び再利用（雑誌・廃プラ・ダンボール・梱包材）
- ③場内・現場戻り品に対する金属の分別及び再利用

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

関連法規の遵守状況は、2024年4月にチェックリストで確認した。

環境関連法規遵守状況チェック結果

No	法令規則等	遵守状況チェック結果
1	公害防止組織整備法	○
2	循環型社会形成推進基本法	○
3	廃棄物処理法	○
4	水濁法	○
5	浄化槽法	○
6	騒音規制法	○
7	振動規制法	○
8	PRT法	○
9	消防法	○
10	高圧ガス保安法	○
11	工場立地法	○
12	安衛法	○
13	公害犯罪防止法	○
14	フロン排出抑制法	○
15	条例（埼玉県生活環境保全条例・施行規則）	○
16	協定書（羽生市環境保全協定書）	○
17	リサイクル法	今期は、該当無し
18	家電リサイクル法	今期は、該当無し
19	自動車リサイクル法	今期は、該当無し

環境関連法規の遵守状況結果及び訴訟の有無は次のとおりです。

内容	今期結果
環境関連法規への違反	無し
関係当局より違反等の指摘	無し

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

- 1、環境負荷実績の5項目において、二酸化炭素排出量・廃棄物総排出量・総排水量・P R T R物質・紙使用量の5項目は全て目標値を達成出来た。
- 2、2023年度は2022年度に対して、生産量は8%減産したが、二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・総排水量は排出量が減少した事により目標値を達成出来た。
また、化学物質使用量に於いては、使用量が前年に対して2.7%増えたが目標値に対して達成出来、紙使用量も使用量が前年に対して15%増えたが目標値を達成出来た。
- 3、廃棄物総排出量の削減では、2022年度の中で59%占めていた木くずがリサイクルになった為、2023年度では大幅な削減となり目標値を達成する事が出来た。
- 4、2023年度は環境負荷実績の5項目で目標値を達成出来たが、効果を図る為に更に細かい改善等でも積み上げて、施策を実施すると共に新たな改善策の実施と更に改善活動の横展開をして活性化を測る様にして下さい。